人形劇団 クラルテ

いえでででんしゃ

原作　あさのあつこ（新日本出版社刊）　脚色　松本則子　演出　宮本敦

あらすじ

　ムジツノツミで母親に叱られ家出をしたさくら子は、家出した子しか乗れない不思議な電車“いえでででんしゃ”に乗ります。中には変なしゃしょうさん。
次々止まる駅で乗ってきたのは、家出をしてきた鷹の仲間チョウゲンボウ。
深海魚のリュウグウノツカイ。そのたびに“いえでででんしゃ”は空を飛んだり、海の底までもぐったり。
しゃしょうさんはみんなの行きたいところへ連れて行ってあげると言うけれど、何だか変。それにみんなが行きたいところって？！
疑問に思ったら、あらら、“いえでででんしゃ”の様子が変・・・。

リュウグウノツカイ

チョウゲンボウ

『いえでででんしゃ』を書いたのは、もう何年も前のことです。

　我が家の裏は小さな空き地になっているのですが、何かの理由で子どもたちをがみがみと怒鳴った後（大人って、怒鳴った理由なんてすぐ忘れちゃうんですよね。どんな言葉で怒ったかも。でも、怒鳴られた子どもたちはちゃんと覚えているんです）、ふっと、窓から外を見ると、その空き地が夕日の色に染まっていたのです。赤とかオレンジとか朱とか、そんなはっきりとした色ではなく・・・ええ、夕日色としかいいようのない色に染まっていました。
そのとき、思い出したのです。昔、昔、わたしが少女であったころ、親にとても理不尽な叱られ方をしたことがありました（どんな理由か覚えています）。悔しくてせつなくて、このままどこかに行ってしまいたいと本気で考えたものでした。
　それを思い出したとたん、『いえでででんしゃ』の物語が生まれました。
　家出をする子は誰でも乗れる電車です。少女のわたしが乗りたかった電車です。この物語を書きながらもがみがみ怒ることしかできない自分が恥ずかしくなりました。
　舞台の上をどんないえでででんしゃが走るのでしょうか。楽しみでなりません。

原作者 / あさのあつこ

さくら子

いえでででんしゃを降りる勇気　演出／宮本敦

　子どもにとって、家出は勇気のいることだと思います。どうしても曲げられない想いを親の力で封じ込められた時、それでも自分を通すための最後の手段が、家出なのかもしれません。　私の小学生の時の「いえで」は30分で終わりました。夜中に行き場もなく、隣の駐車場の陰にじっと隠れていただけでした。もちろん本当の家出とは呼べません。でもよく覚えています。家を出る時の怒りと悔しさ、隠れている間の心細さと迷い、母に見つかった時の恥ずかしさと安堵感。
　さくら子のように本当の家出をしようと飛び出すような子どもたち、私のように本当の家出とまではとても出来ない子どもたち、みんなの気持ちを乗せて「いえでででんしゃ」は走ります。その行く先は子どもたちの気持ち次第です。
そして降りる時には、乗る時とは違う勇気が必要です。　それはきっと、乗る勇気よりずっと大切な勇気です。
　この人形劇を通して、さくら子たちと気持ちを分かち合い、いえでででんしゃを降りる「勇気」を受け取って貰えることを願っています。

人形劇団 クラルテ
〒559-0015　大阪市住之江区南加賀屋3-1-7
☎06-6685-5601　FAX 06-6686-3461 AM10:00〜PM5:30（日・祝休み）
http://www.clarte-net.co.jp
E-mail:office@clarte-net.co.jp